

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予察特殊報第1号について

このことについて、本県でワタミヒゲナガゾウムシの発生を確認したので、病虫害発生予察特殊報第1号を発表し、送付します。

特殊報第1号

1 病虫害名 ワタミヒゲナガゾウムシ

2 学名 *Araecerus coffeae* (Fabricius)

3 発生作物 ウンシュウミカン

4 発生確認の経緯

平成25年4月上旬に県内のハウスミカン園で成虫を確認し、その後、樹上の腐敗果や落下した果実に多くの成虫が寄生していた（写真1）。着色前の果実のへた部周辺に幼虫がおり、果実は黄変し落下する被害が認められた（写真2）。

平成25年6月13日に、被害樹より採集した虫を門司植物防疫所福岡支所に同定を依頼した結果、ワタミヒゲナガゾウムシ（*Araecerus coffeae* (Fabricius)）であると同定された。

現在、発生が確認されているのは県内の一部地域の数施設のみである。

5 国内外での発生状況

(1) 寄主植物は、ワタ、ニンニク、ラッカセイ、カンキツ類、コーヒー、サツマイモ、アボガド、サトウキビ、ジャガイモ、トウモロコシ、乾燥貯蔵生産物などである。熱帯、亜熱帯地域のコーヒー、カカオ生産地では重要害虫となることがある。

(2) 本虫は本州、四国、九州及び沖縄に分布しており、佐賀、長崎、大分、愛媛、香川、高知、和歌山等のハウスミカン園で果実への被害が問題となっている。

6 形態及び生態

成虫は暗褐色から黒褐色のまだら模様で、体長は3～5mm（写真3）である、幼虫は白色で体長は5～6mmで、植物内部に食入し発育する。

7 被害

- (1) ウンシュウミカンでは、幼虫が成熟果および幼果を加害し、幼果が加害された場合、果実は黄変し落下する。
- (2) 発生初期は生理落果や摘果した果実で増殖し、そこから発生した成虫が健全果実にも産卵する。
- (3) 露地栽培園での被害も一部の県で確認されているが、ハウス栽培園での被害が多く報告されている。

8 防除対策

- (1) 登録農薬はピフェントリン水和剤（使用時期：収穫前日まで）のみで、成虫発生期に散布する。
- (2) 生理落果や摘果した果実は発生源となるので、園外に持ち出す。



写真1 被害果実とワタミヒゲナガゾウムシの成虫(ウンシュウミカン)



写真2 果実へた部への幼虫による被害(ウンシュウミカン)



写真3 ワタミヒゲナガゾウムシの成虫